

21PO-am410

検体測定キットを利用した物理系実習の学習効果に関わる一考察

○町田 遥¹, 内海 美保¹, 平野 裕之¹, 藤井 文彦¹, 道田 隆¹ (¹神戸学院大薬)

【目的】地域の薬局においては、2014年に検体測定事業が導入され、2015年には患者のための薬局ビジョンが公表され、国民の健康維持・増進に向けてさまざまな改革が図られている。このうち、指先からの採血により血糖や中性脂肪(TG)等を明らかにする検体測定事業においては、国民が健康への意識を高め、自らの健康管理を行うことができるように、薬剤師には、受検者への説明と報告のほか、衛生管理、定期的な精度管理等を実施することが求められている。今回、薬学生が地域の薬剤師の役割に対する理解を深め、簡易検査キットの適切な精度管理を実施する一助となるよう3年次の物理系実習にPBLを導入したので、その結果を報告する。【方法】2016年10月～12月、及び2017年10月～12月において、本学3年次生、計436名に対してPBLを実施した。血糖測定器、脂質測定装置等、計7種類の検査キットを各班に割り当て、検査キットの測定原理や測定結果に影響を与える因子等を調査した。各班での調査結果をクラス全体で発表し、発表会終了後に自記式評価票(6段階)にて学習の到達状況を評価した。【結果】436名の学生から回答が得られた。9割以上の学生が「検体測定室の意義について理解できた」「感染制御の方法について理解できた」と回答した。また、検査キットの測定原理や測定結果に影響を与える因子については、8割以上の学生がどの検査キットについても理解ができたと答えたものの、アレルギー検査キットや肌水分計の測定原理については、十分に理解できなかったと答える割合が比較的多かった。【考察】国民自らが行う健康管理を薬剤師が適切に支援していくためには、学生のうちから様々な学習をしていくことはもとより、充実した教育に向けては、基礎系教員と臨床系教員の連携も重要であることが示唆された。